

# SMBCグループの経営戦略

2025年2月18日

証券コード	8316
単元株数	100株
株価*	3,730円

\* 2025年2月12日現在

# 本日のアジェンダ

I	SMBCグループの特長・強み	3
II	SMBCグループの成長戦略	13
	ご案内	25
	ご参考資料	28



# I. SMBCグループの特長・強み

---



# プロフィール

拠点

グループ全体  
(海外)



38

カ国・地域

150

拠点

従業員

グループ全体



12 万人

うち海外



7 万人

## 2023年度業績

**連結粗利益**

(一般企業の売上に相当)

3兆7,388 億円

**総資産**

295 兆円

**連結業務純益**

(一般企業の営業利益に相当)

1兆5,602 億円

**貸出金残高**

107 兆円

**親会社株主純利益**

9,629 億円

**預金残高**

180 兆円

# SMBCグループのビジネス

各業界トップクラスのグループ企業が幅広い金融サービスを提供

## 三井住友銀行 (SMBC)



## SMBC日興証券



## 三井住友カード



## SMBCコンシューマー ファイナンス



## SMBC信託銀行



## 三井住友DS アセットマネジメント



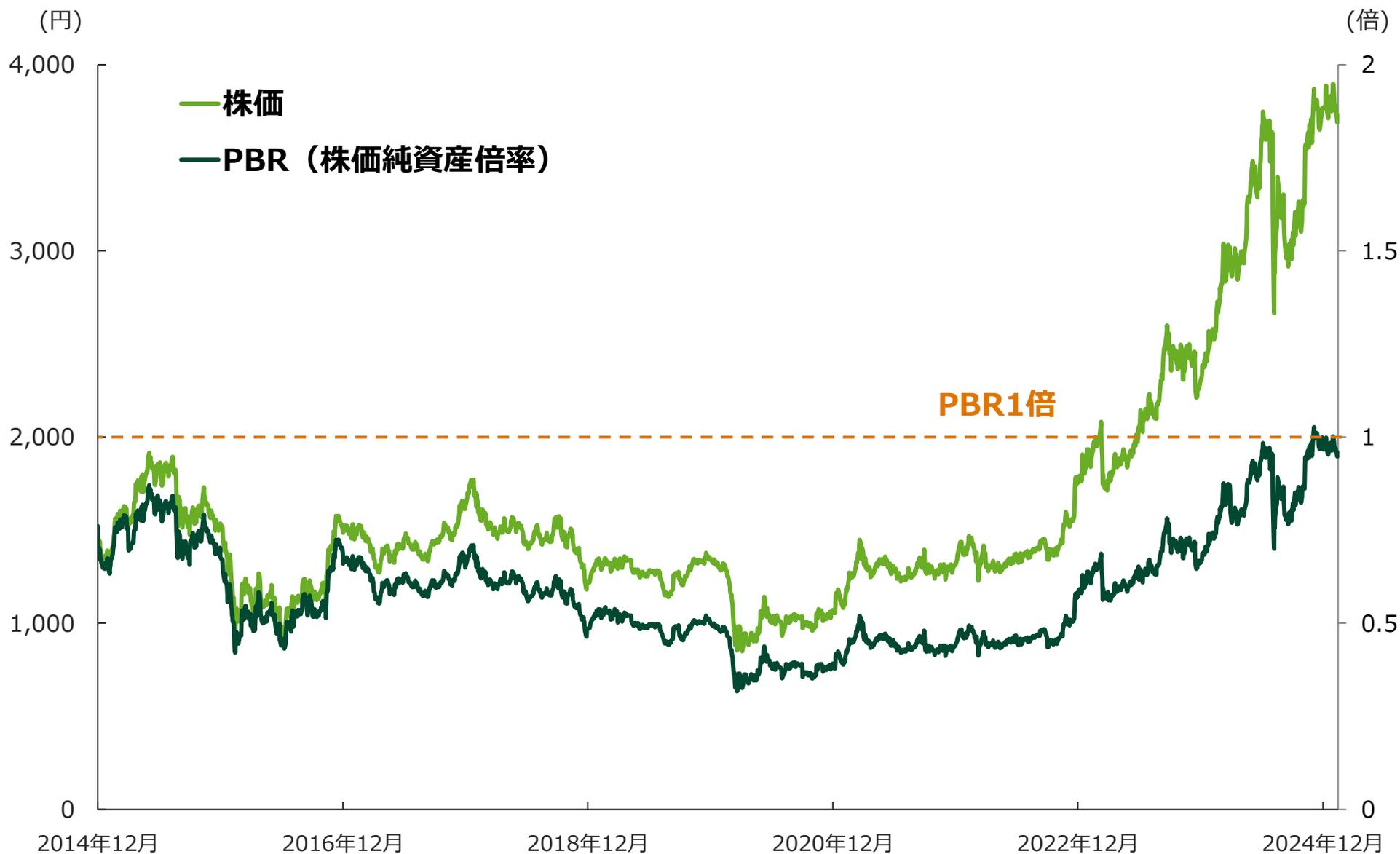
## 三井住友 ファイナンス&リース



## 日本総合研究所



# 10年間の株価推移\*1



\*1 2024年10月1日付で実施した株式分割を踏まえ、それ以前の株価について遡って調整

# SMBCグループの特長・強み



1.

**確かな成長性**



2.

**多様な収益源**



3.

**積極的な株主還元**

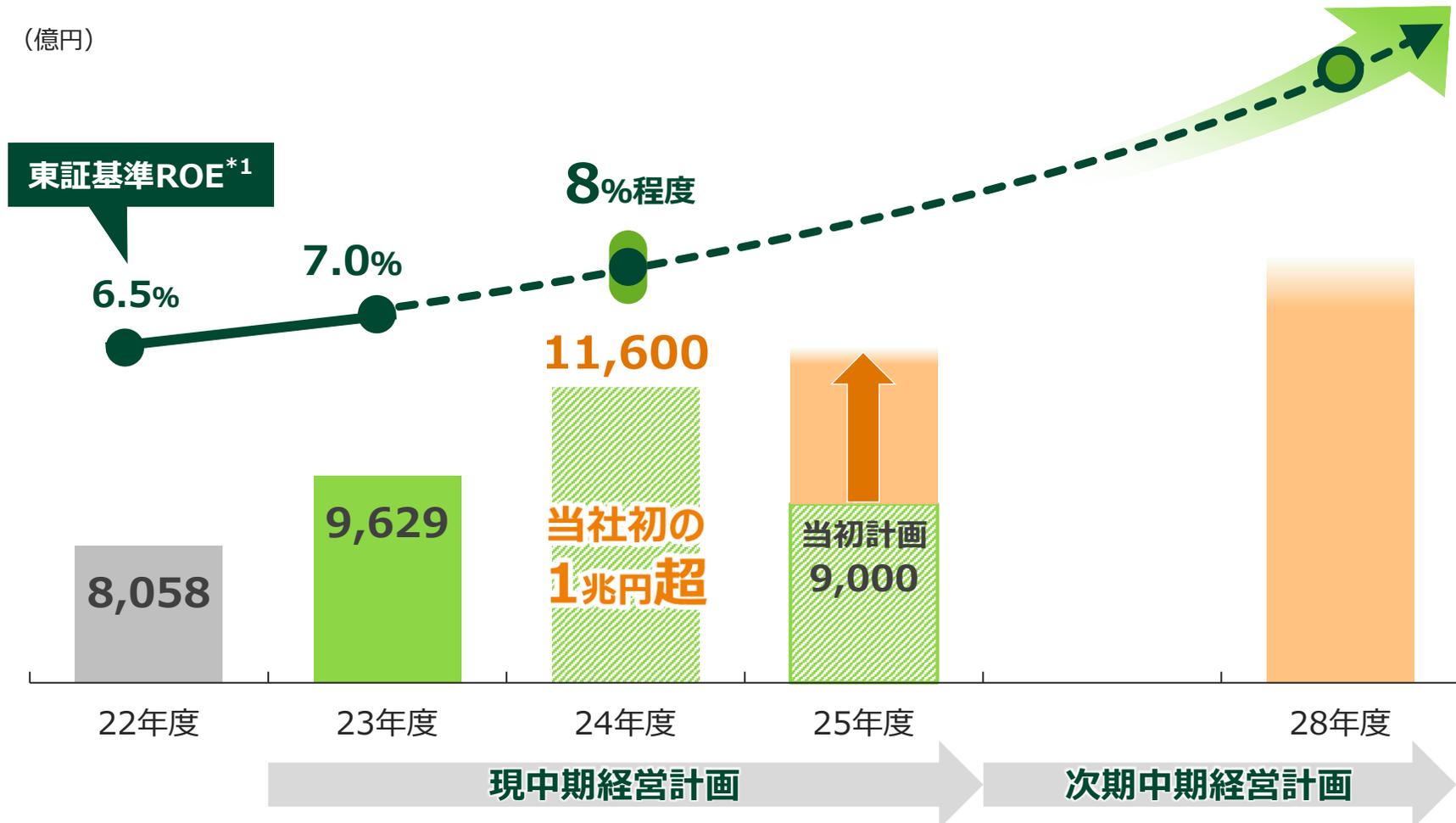


4.

**資本・資産の健全性**

# 特長・強み ① 確かな成長性

良好な業務環境の中で事業戦略を遂行し、着実な成長を実現



\*1 親会社株主純利益 / (純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分)

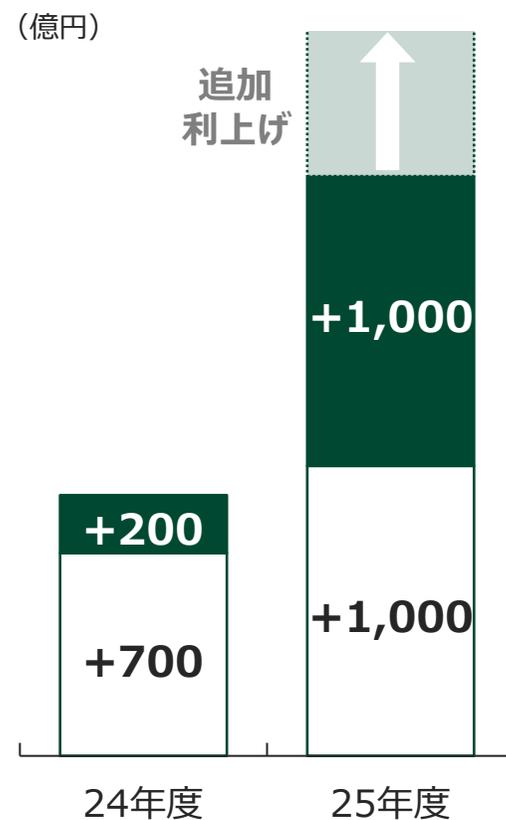
# (ご参考) 円金利上昇による資金利益への影響\*1

	24年3月	24年7月	25年1月	今後
政策金利	0-0.1%	0.25%	0.50%	さらに +0.25% あたり
資金利益 影響 (億円)	+1,000		+1,000	+1,000 <sup>*2</sup>

## 試算の前提

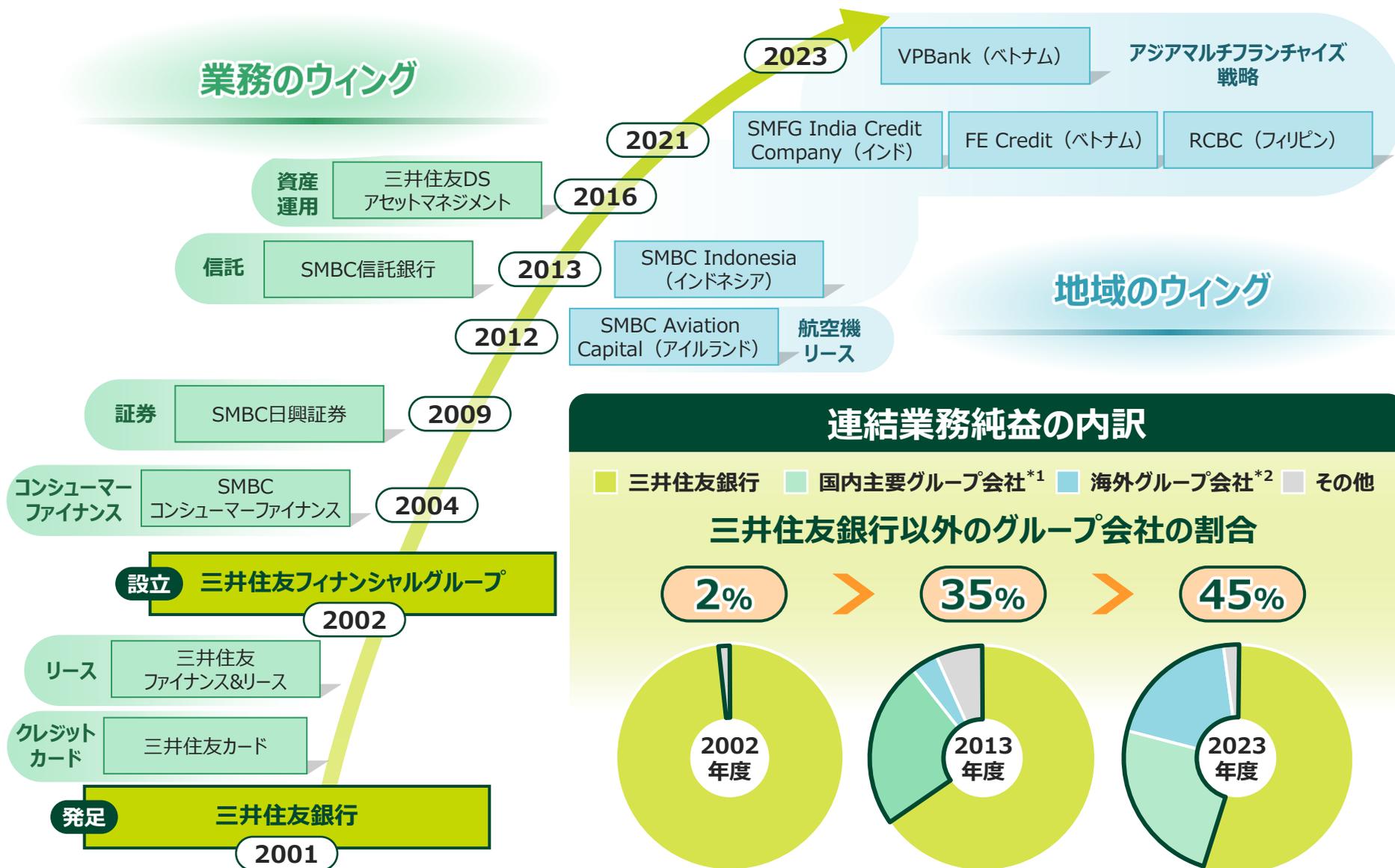
市場連動貸金	+25bps
短期プライムレート連動貸金	+25bps
固定貸金	+25bps
国債	+25bps
日銀当預付利	すべて+25bps
普通預金	+10bps
定期預金	+10bps

## 利益の計上時期イメージ



\*1 バランスシートは不変の前提 \*2 長期・短期金利ともに+25bpsずつ上昇の想定

# 特長・強み ②多様な収益源



\*1 SMBC日興証券、三井住友カード、SMBCコンシューマーファイナンス、三井住友ファイナンス&リース等  
 \*2 SMBCバンクインターナショナル（欧州）、Bank SMBC Indonesia、SMFG India Credit Company等

# 特長・強み ③積極的な株主還元



累進的配当  
配当性向40%

+

機動的な自己株取得



■ 1株あたり配当金 (円) \*1



自己株取得 (億円)	-	700	1,000	-	-	1,387	2,113	過去最大額 2,500
総還元性向 (%)	33	44	51	51	41	58	59	62

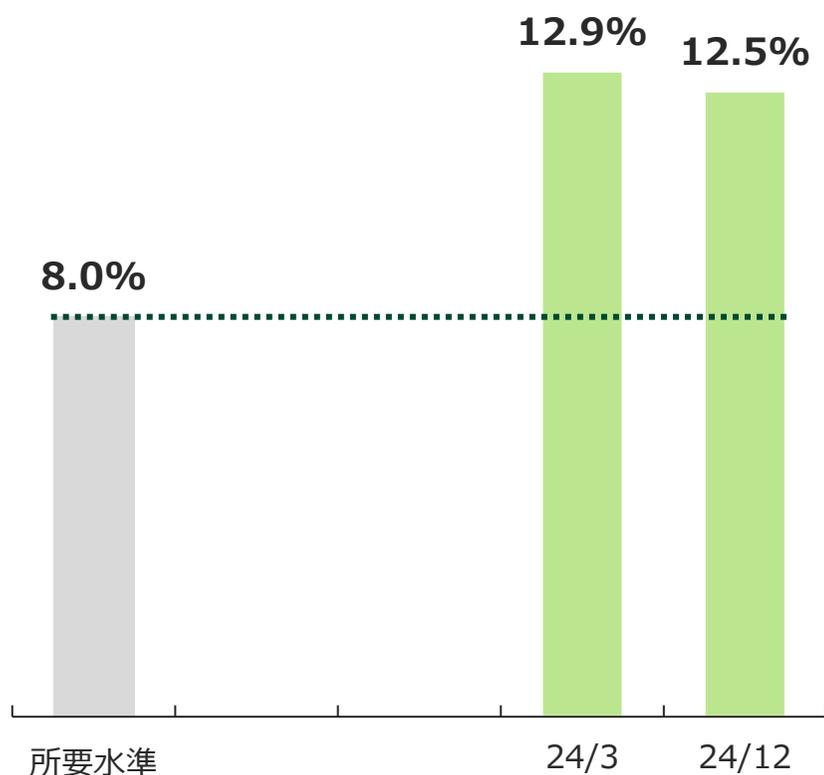
\*1 2024年10月1日付けで実施した株式分割を踏まえ、それ以前の配当額について遡って調整

# 特長・強み ④ 資本・資産の健全性

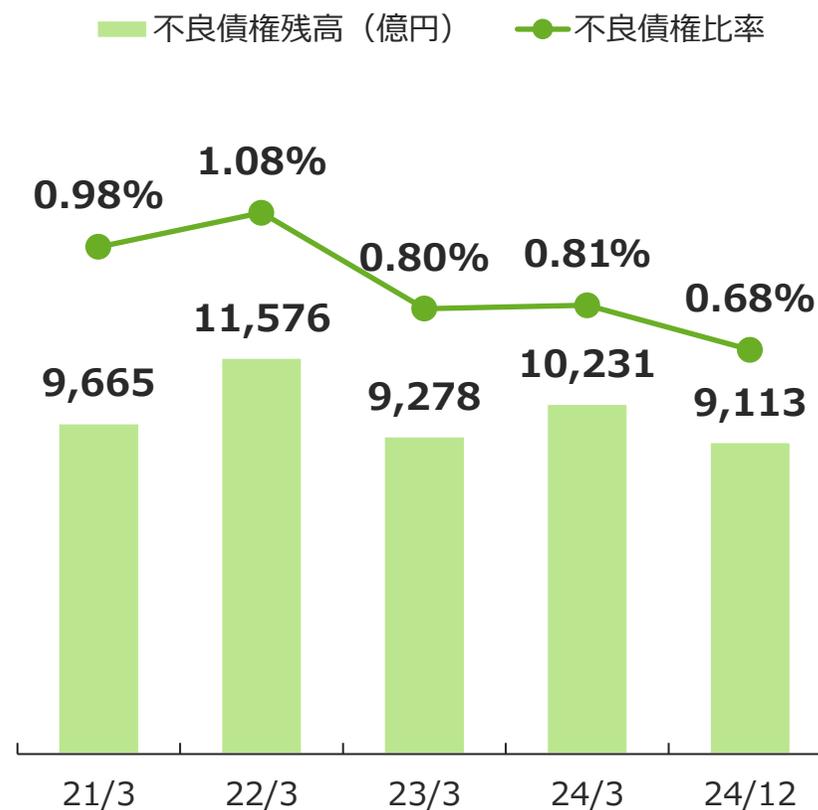
十分な自己資本、低水準の不良債権比率を維持



## 普通株式等Tier1比率（規制基準）



## 不良債権残高・比率



## Ⅱ. SMBCグループの成長戦略

---





金融機関を取り巻く環境は劇的に変化

変化の激しい  
金融環境

グローバル化の  
反転・分断

社会課題の  
深刻化

異業種の参入・  
競争環境の激化

DXの進展

従業員の  
価値観の多様化

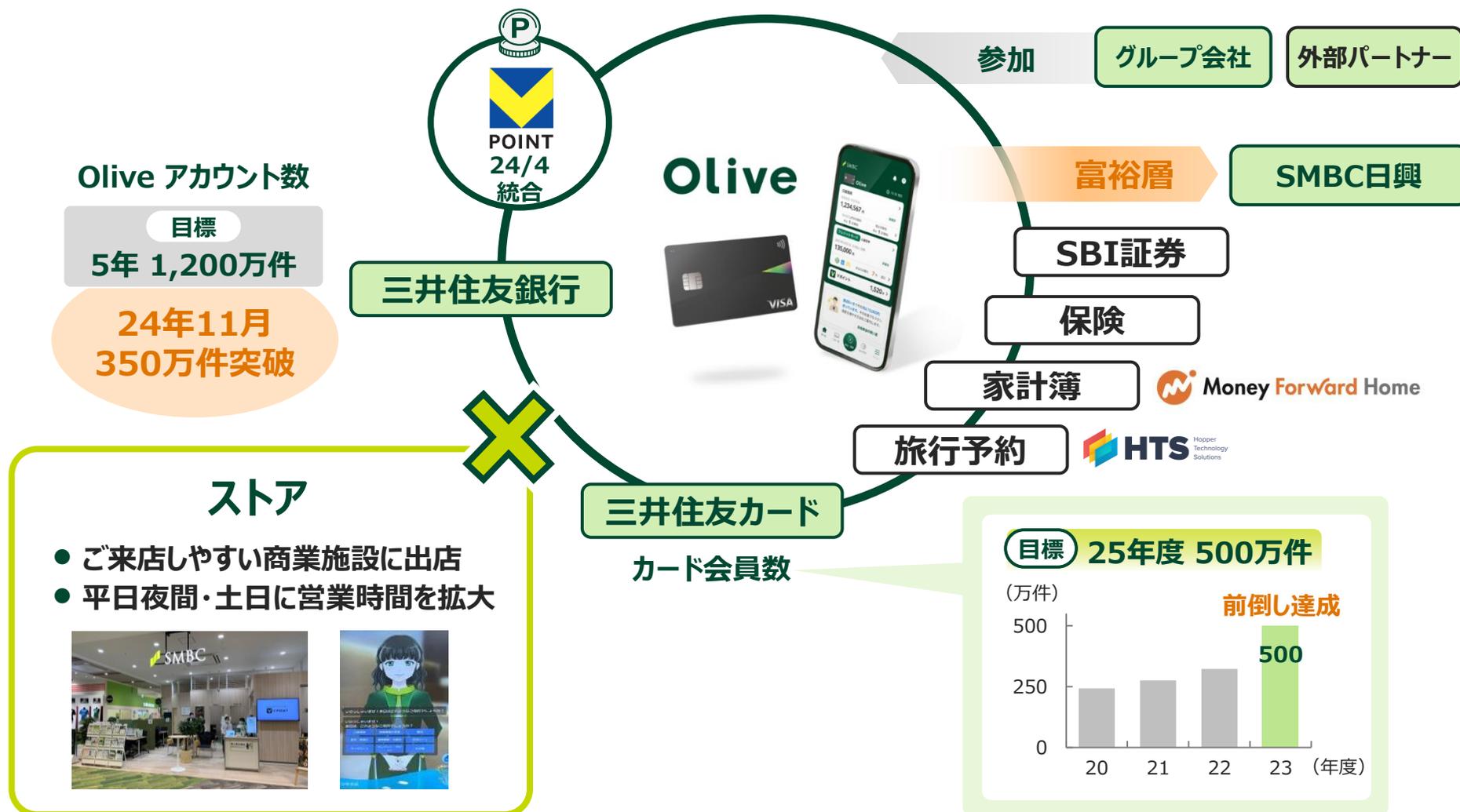
貯蓄から  
資産形成への流れ

変化に機動的に対応しつつ成長を実現

# 事業戦略 (1) 個人のお客さま向けデジタルサービス

Plan for  
Fulfilled Growth

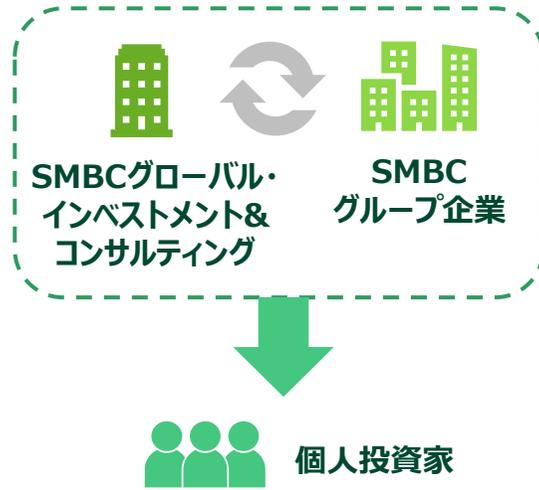
圧倒的なプラットフォームOliveを軸として、個人のお客さま向けビジネスを推進



## 事業戦略（2）資産運用立国への貢献

お客さまの多様なニーズに寄り添いながら、  
最適なプランを提供する「資産運用ソリューションプロバイダー」への飛躍を目指す

### ① 資産運用ビジネスの体制整備



### ② お客さまの資産形成を支援



### ③ 運用力を強化し、 お客さまに多様な商品を提供

三井住友DSアセットマネジメント

Be  
Active.

その一歩で、未来は変えられる。

### ④ 資産運用におけるガバナンスを強化

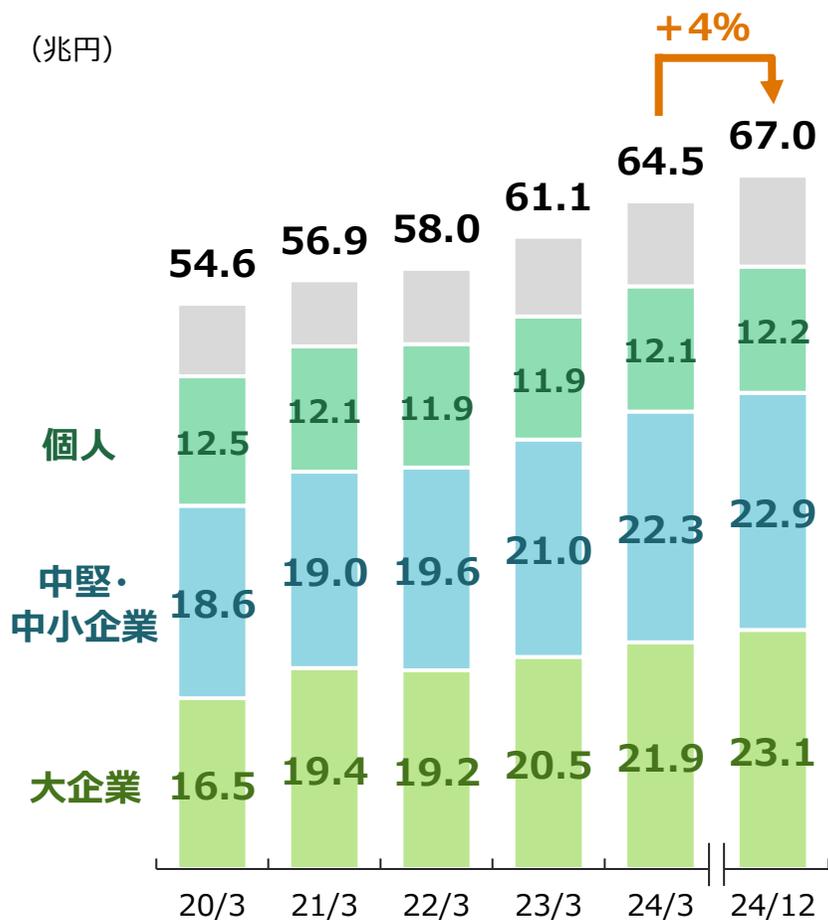
専門人材の招聘・育成



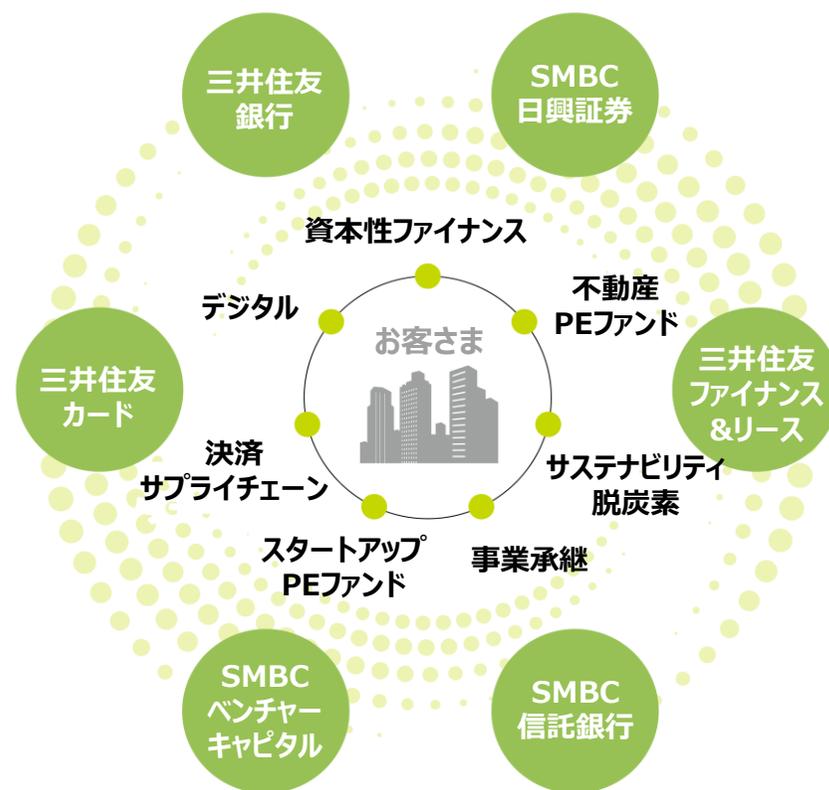
# 事業戦略 (3) 法人のお客さま向けビジネス

付加価値の高い提案活動を通じてお客さまの資金需要に応え、貸出金残高を積上げ

## 国内法人向け貸出金残高\*1



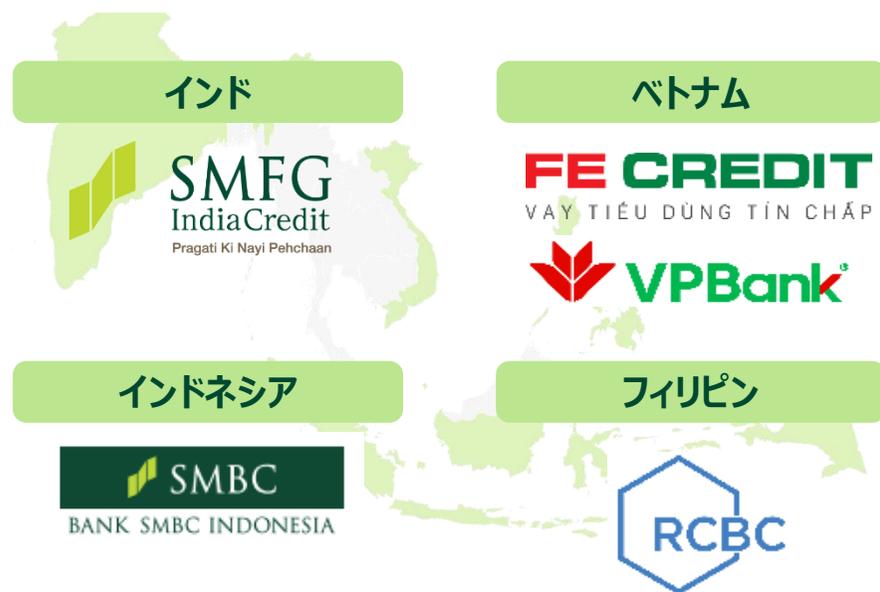
## グループ一体でのソリューション提供



\*1 内部管理ベース、三井住友銀行単体

アジアや米国に築いた事業基盤を通じて、各国での成長機会を捕捉

## アジアでのマルチフランチャイズ戦略



▶ アジアに第2、第3のSMBCグループを創る

## 米国でのビジネス強化

### 海外証券ビジネス

#### Jefferies



#### 協働実績

24年度上期迄：  
**159**件成約

### デジタルバンク



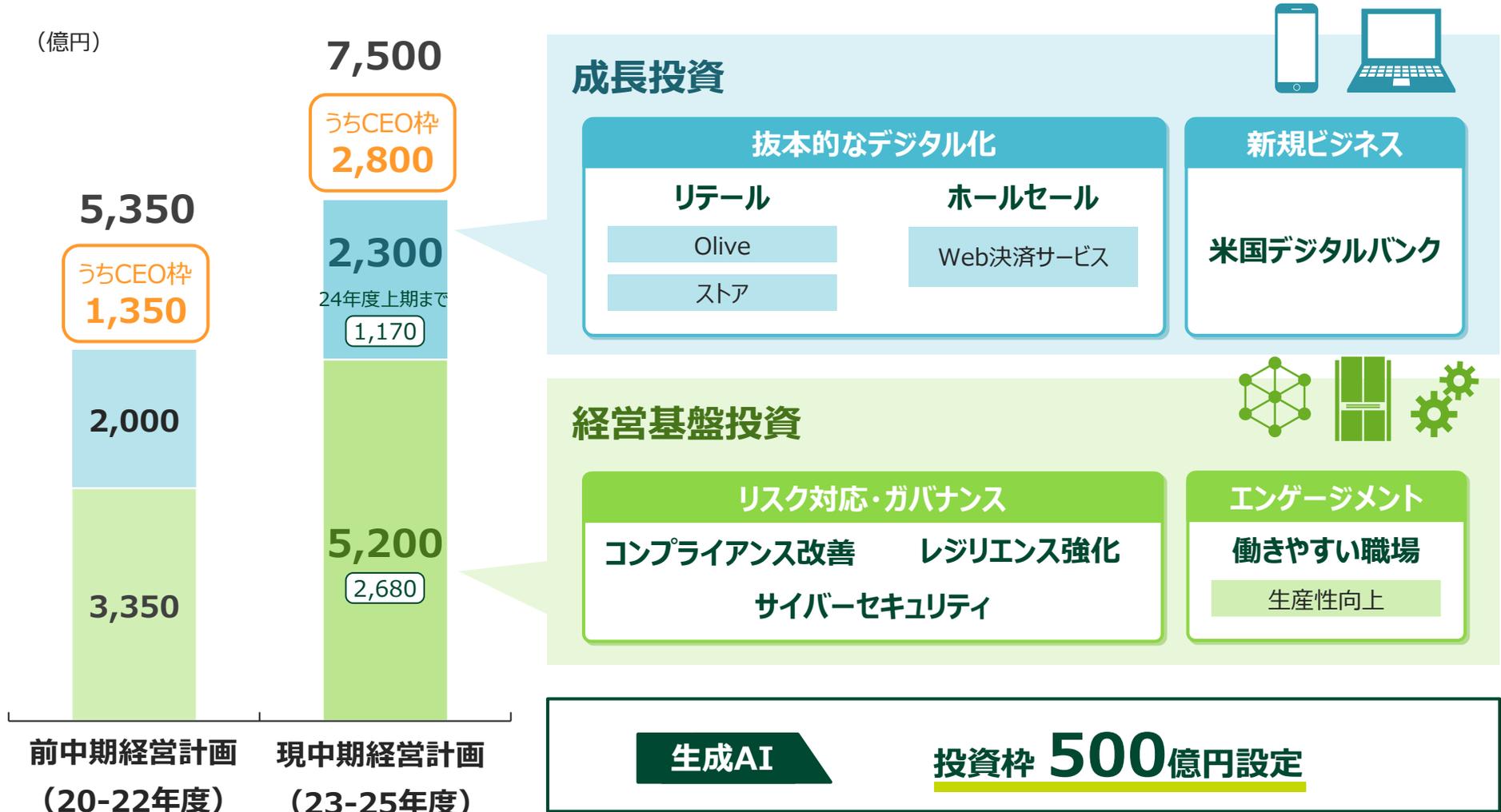
#### ローン残高

24年7月：**10**億ドル突破

#### 預金残高

24年5月：**10**億ドル突破

デジタル戦略加速のための成長投資と、安定した銀行業務継続のための経営基盤投資に資源を投入



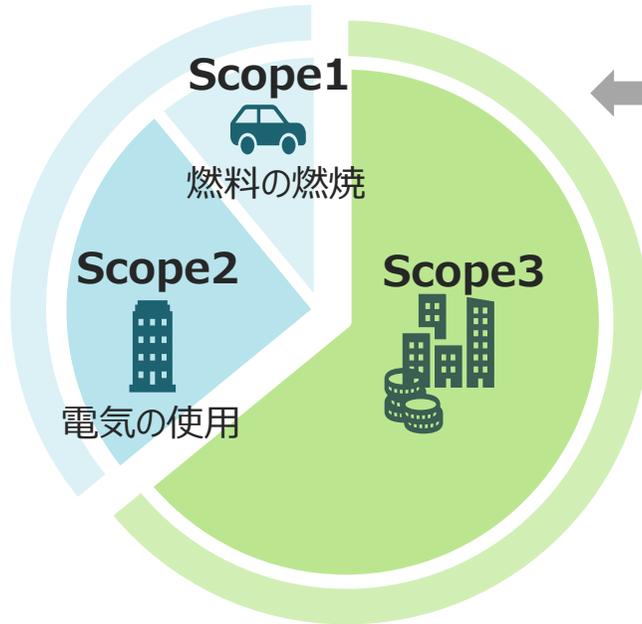
# 社会的価値の創造 (1) マテリアリティ

SMBCグループとして取り組むべき5つの重点課題（マテリアリティ）を設定し、社会的価値の創造に向けた取組を推進

	KPI	FY23実績
 <p>トランジションの支援を通じた脱炭素社会の実現 自然資本の保全・回復への貢献</p>	<p>サステナブルファイナンス取組額 <b>50兆円</b> (20-29年度)</p>	<p><b>24兆円</b> (20-23年度)</p>
 <p>従業員が働きがいを感じる職場の実現 サプライチェーン全体における人権の尊重</p>	<p>エンゲージメントスコア <b>70</b>以上維持</p>	<p><b>72</b></p>
 <p>次世代への貧困・格差の連鎖を断つ 新興国における金融包摂への貢献</p>	<p>マイクロファイナンス提供者数 <b>+80万人</b> (22年度比)</p>	<p><b>+15.3万人</b></p>
 <p>人生100年時代への不安解消 人口減少社会を支える利便性の高い基盤の構築</p>	<p>AM・外貨残高 <b>18兆円</b> (25年度末時点)</p>	<p><b>17兆円</b></p>
 <p>企業のビジネスモデル変革支援 イノベーション創出・新たな産業の育成</p>	<p>スタートアップ向けの投融資額 <b>1,350億円</b> (23-25年度)</p>	<p><b>792億円</b></p>

## 温室効果ガス削減に向けた取組

2030年 ゼロ  
自社の排出



多様なソリューションで  
お客さまの削減をサポート

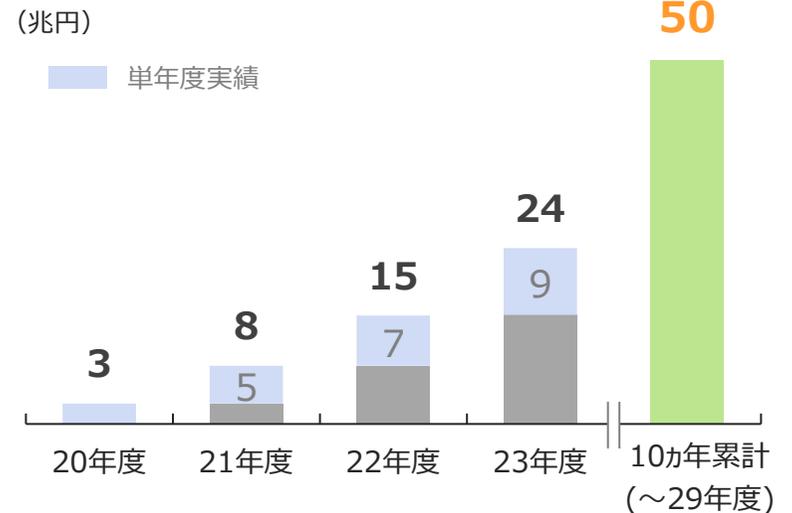


投融資先の排出  
2050年 ゼロ

## サステナブルビジネスの推進

サステナブルファイナンス  
2030年目標

累計50兆円



温室効果ガス排出量  
可視化ツール



利用企業2,000社超

多様な社員が挑戦し続け、  
働きがいを感じる職場とチームの実現



人的資本投資

戦略を支える  
人材構成を  
構築

従業員の  
成長支援

チーム力の  
最大化

三井住友銀行

## 人事制度の改定（2026年1月予定）

- プロフェッショナルとしての軸をつくる人材マネジメント
- 一律の年次運用を撤廃し、役割と成果・貢献を重視
- 多様なキャリアと働き方を公正に評価・処遇

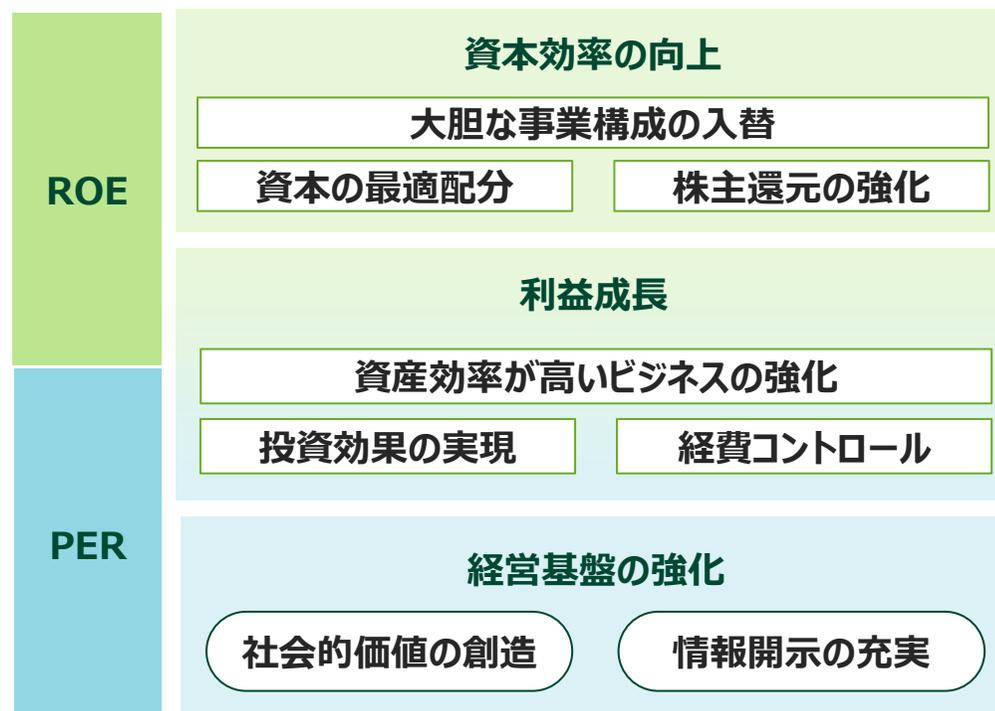
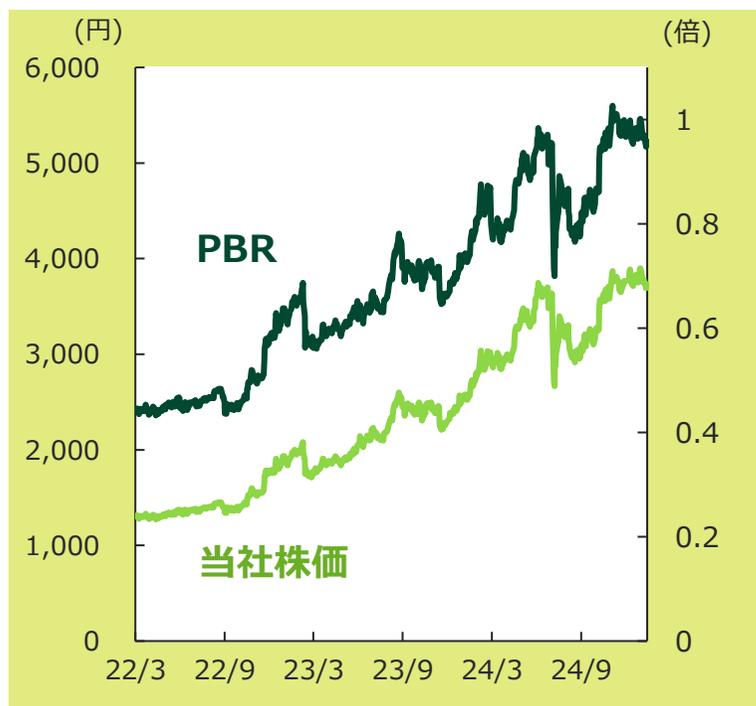
## 多様な人材の確保・育成・登用

		実績	目標 <sup>*3</sup>
ジェンダー	女性取締役比率	25.0%	30%
	女性管理職比率	21.7%	25%
外国籍	マネジメントポジションにおける女性比率	25.8% <sup>*1</sup>	30%
	外国籍役員数	22名 <sup>*2</sup>	25名
キャリア採用	キャリア採用比率	40.8% <sup>*1</sup>	30.7%
	キャリア採用管理職比率	18.8% <sup>*1</sup>	18%

\*1 24/3末時点 \*2 24/6末時点 \*3 25年度（女性取締役比率は30年度）

自己資本利益率（ROE）と株価収益率（PER）の両面から、株価純資産倍率（PBR）を向上

$$\begin{array}{c}
 \mathbf{PBR} \\
 \hline
 \text{株式時価総額} \\
 \text{純資産}
 \end{array}
 =
 \begin{array}{c}
 \mathbf{ROE} \\
 \hline
 \text{当期純利益} \\
 \text{純資産}
 \end{array}
 \times
 \begin{array}{c}
 \mathbf{PER} \\
 \hline
 \text{株式時価総額} \\
 \text{当期純利益}
 \end{array}$$



# ご案内

---



# 当社のウェブサイト①

当社ウェブサイト、個人投資家の皆さまに向けたコンテンツを掲載



## 個人投資家の皆さまへ

SMBCグループの特長・取組を  
分かりやすくご説明しています



## SMBC GROUP REPORT 2024

経営陣からのメッセージ、SMBCグループの成長戦略や従業員インタビューを掲載しております。



# 当社のウェブサイト②

## Plan for Fulfilled Growth

中期経営計画について動画やインタビュー記事を通じて、分かりやすくご紹介しています。



## SMBCグループ二十年史

2011～2020年度のSMBCグループの歩みを記した社史です。



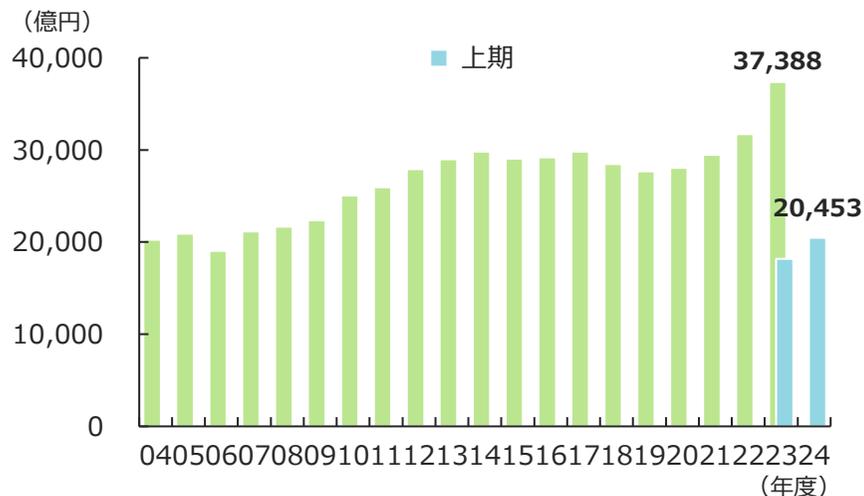
# ご参考資料

---

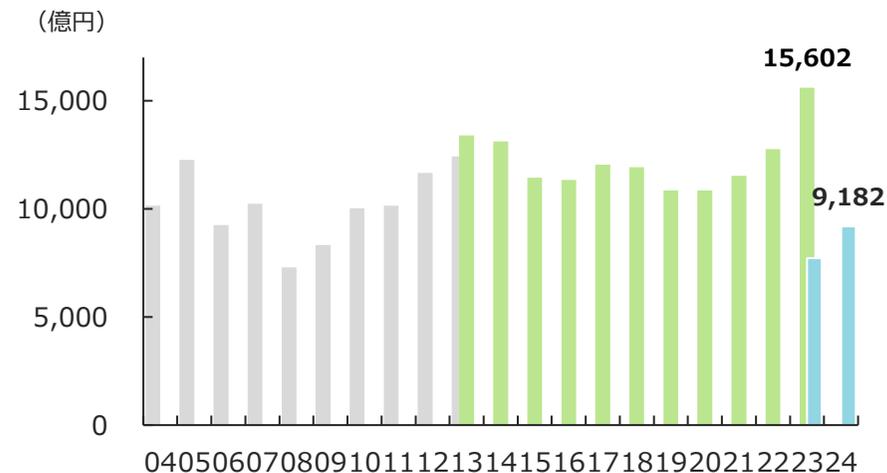


# 業績推移

## 連結粗利益



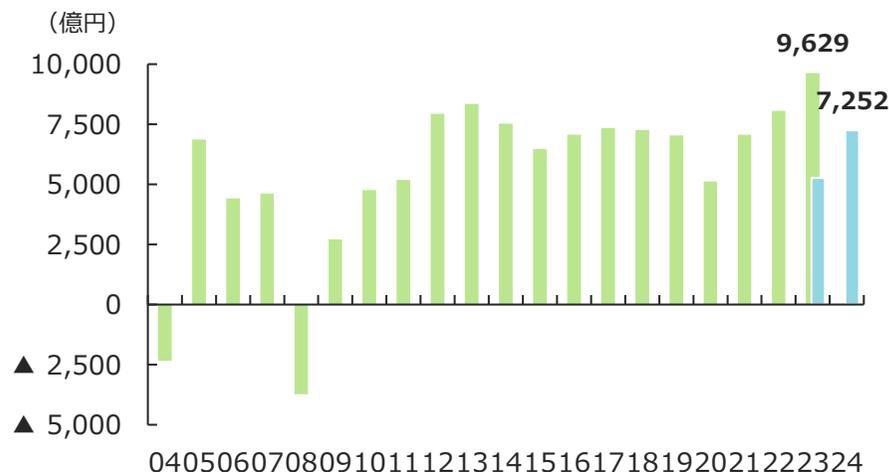
## 連結業務純益\*1



## 連結粗利益の内訳

	02年度		24年度 上期
国内貸出金・預金関連 (BC単体)	35%	↘	13%
海外ビジネス (銀行業)	5%	↗	35%
SMBC以外のグループ会社	18%	↗	26%

## 親会社株主純利益



\*1 14年度より連結業務純益の定義を変更、13年度について遡及処理を実施

# 決算の概要

## 連結P/L

(億円)	24年度 3Q	前年 同期比	24年度 目標
連結粗利益	31,623	+4,360	
営業経費	▲17,730	▲1,419	
持分法投資損益	705	▲363	
連結業務純益	14,598	+2,577	16,200
与信関係費用	▲1,580	▲234	▲2,600
株式等損益	4,312	+2,866	
その他	▲1,139	▲986	
経常利益	16,191	+4,224	17,100
親会社株主純利益	11,360	+3,431	11,600

## 主要グループ会社

(左：24年度1-3Q実績、右：前年同期比)

(億円)	SMBC		SMBC日興 <sup>*1</sup>		SMCC <sup>*2</sup>	
業務粗利益	17,401	+3,944	4,066	+586	6,111	+184
経費	▲7,828	▲586	▲3,328	▲320	▲4,087	▲9
業務純益	9,573	+3,358	738	+266	1,982	+274
当期純利益	10,135	+4,586	753	+311	▲215	▲740 <sup>*3</sup>
					(持分法適用)	
			SMBC信託		三井住友DS <sup>*4</sup> 50%	
			SMFL <sup>*5</sup> 50%			
業務粗利益	509	▲15	356	+52	2,353	+187
経費	▲318	▲16	▲264	▲17	▲1,013	▲97
業務純益	191	▲30	92	+35	1,436	+125
当期純利益	139	▲30	39	+13	769	▲430

\*1 SMBC日興アメリカおよびSMBC Capital Marketsの利益を含む内部管理ベース \*2 SMCCCFの計数を含む

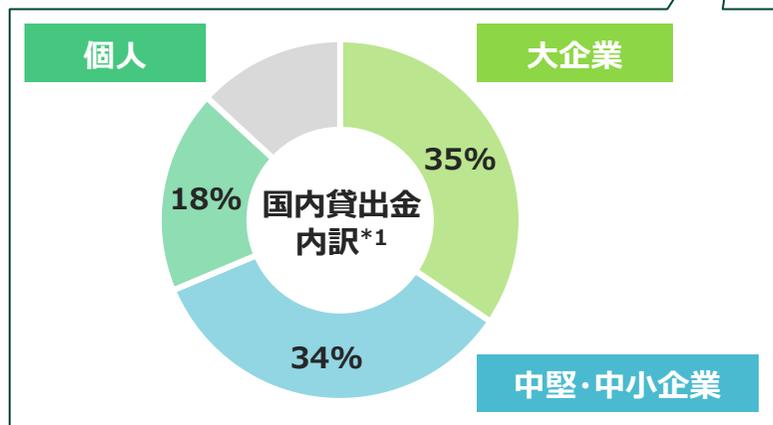
\*3 過払債務の抜本的処理影響▲880億円を含む \*4 SMBCグローバル・インベストメント&コンサルティングの計数を含む

\*5 内部管理ベース

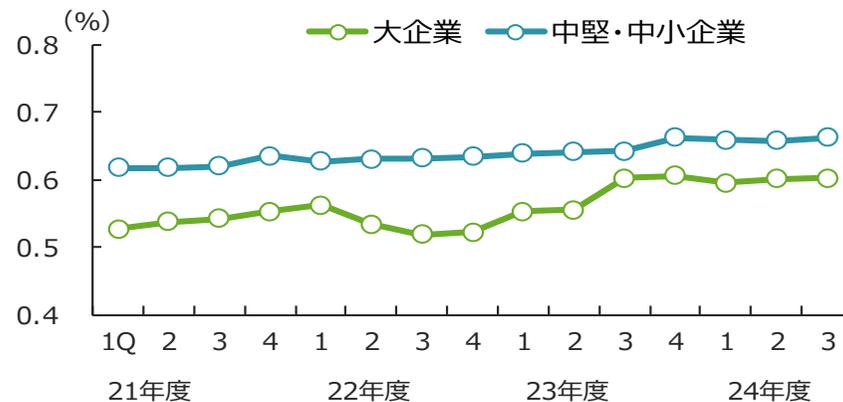
# 貸出金

## 貸出金残高 (SMBC単体) \*1

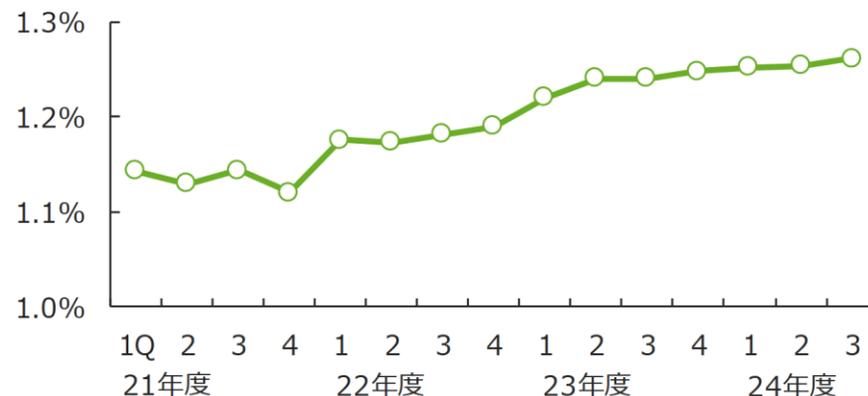
(兆円) ■ 海外店分及び特別国際金融取引勘定分 ■ 国内店分



## 国内法人向け貸出金スプレッド (SMBC単体) \*1,2



## 海外貸出金スプレッド\*1,3



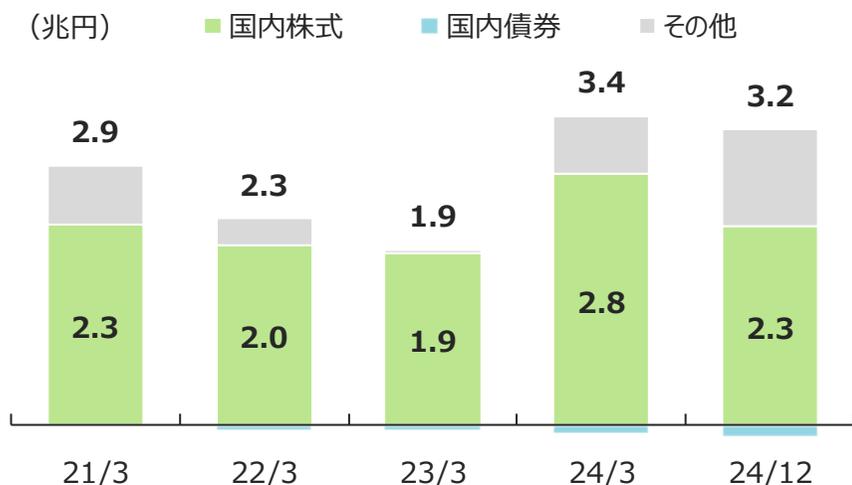
\*1 内部管理ベース \*2 ストックベース、政府向け等を除く \*3 ストックベース

# 有価証券

## ■ 其他有価証券の内訳（連結）

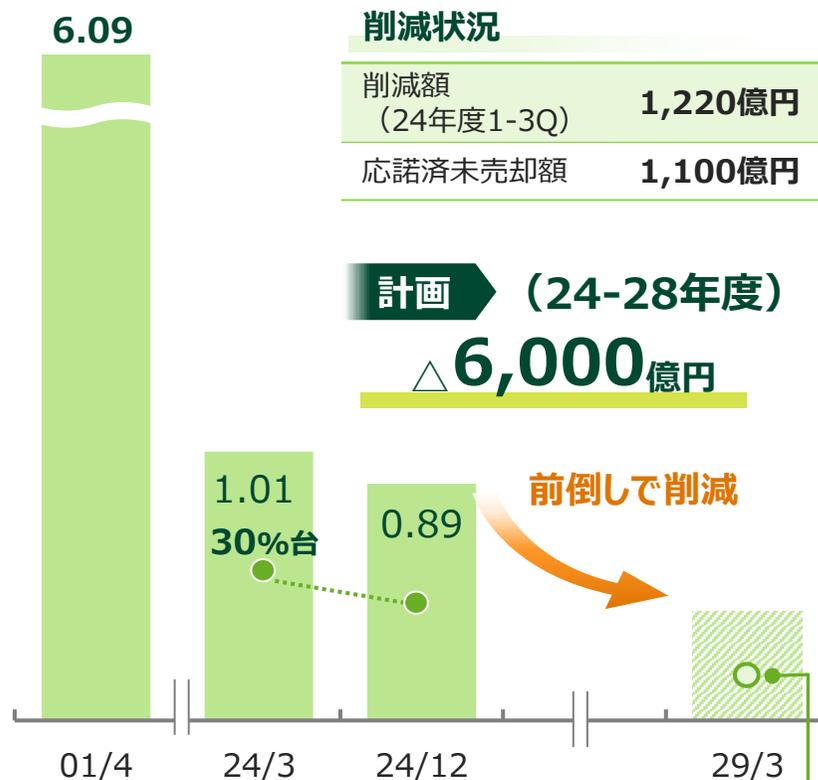
(億円)	残高		評価損益	
	24/12末	24/3末比	24/12末	24/3末比
満期保有目的	2,594	+253	▲40	▲26
其他有価証券	401,034	+39,706	32,172	▲1,759
国内株式	34,001	▲7,197	22,519	▲5,851
国内債券	119,317	+11,713	▲1,221	▲219
うち国債	90,718	+15,245	▲545	+4
その他	247,717	+35,190	10,873 <sup>*1</sup>	+4,311
うち外債	190,983	+22,621	▲6,686	+220

ヘッジ取引も活用し、リスク量はコントロール



## ■ 政策保有株式（24/12末）

(兆円) ■ 国内上場株式簿価<sup>\*2</sup>  
 .....●..... 政策保有株式時価残高<sup>\*3</sup> ÷ 連結純資産



### 削減状況

削減額 (24年度1-3Q)	1,220億円
応諾済未売却額	1,100億円

計画 (24-28年度)  
 △ 6,000億円

前倒して削減

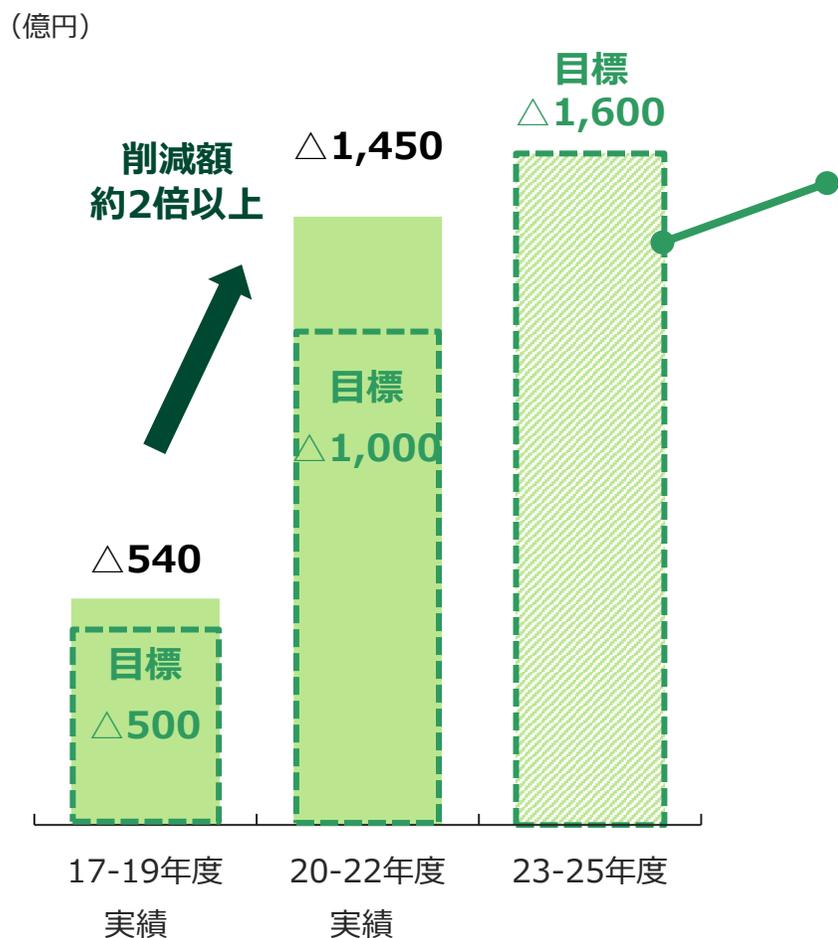
目標：20%未満  
 24/3末株価<sup>\*4</sup>前提で16%程度

\*1 外国債券との差額は外国株式等

\*2 20/3末以降の業務提携目的の出資を除く \*3 有価証券報告書に記載される「みなし保有株式」の残高を含む

\*4 24/3末の日経平均株価@40,369円

新中期経営計画（23-25年度）の3年間で△1,600億円のコストを削減し、戦略領域に資源を投入



## ① 国内のビジネスモデル改革

△600億円

- チャンネル改革と事務効率化
- 法人ビジネスのデジタル化
- 業務のデジタル化のさらなる加速

## ② グループの機能集約

△450億円

- グループ内の重複機能や拠点の集約
- システム資産の共同利用・スリム化

## ③ 海外業務効率化

△250億円

- 低採算ビジネスの資源配分見直し・事務効率化
- 拠点網の見直し・重複機能の統合

## ④ 既存施策の取組強化・追加施策

△300億円

# 外部からの評価

## 外部格付

	SMFG		SMBC	
	(長期)	(短期)	(長期)	(短期)
Moody's	A1	P-1	A1	P-1
S&P	A-	-	A	A-1
Fitch	A-	F1	A	F1
格付投資情報センター (R&I)	AA-	-	AA	a-1+
日本格付研究所 (JCR)	AA	-	AA	J-1+

## ESGインデックスへの組入れ



FTSE Blossom Japan



FTSE Blossom Japan Sector Relative Index



FTSE4Good



2024 CONSTITUENT MSCI JAPAN EMPOWERING WOMEN INDEX (WIN)

2024 CONSTITUENT MSCI NIHONKABU ESG SELECT LEADERS INDEX

GPIF 選定インデックス

## 外部評価\*1



健康経営優良法人  
Health and productivity  
ホワイト500



NIKKEI Smart Work  
★★★★ 2025



work with Pride  
Gold 2024



プラチナくるみん  
子育てサポートしています



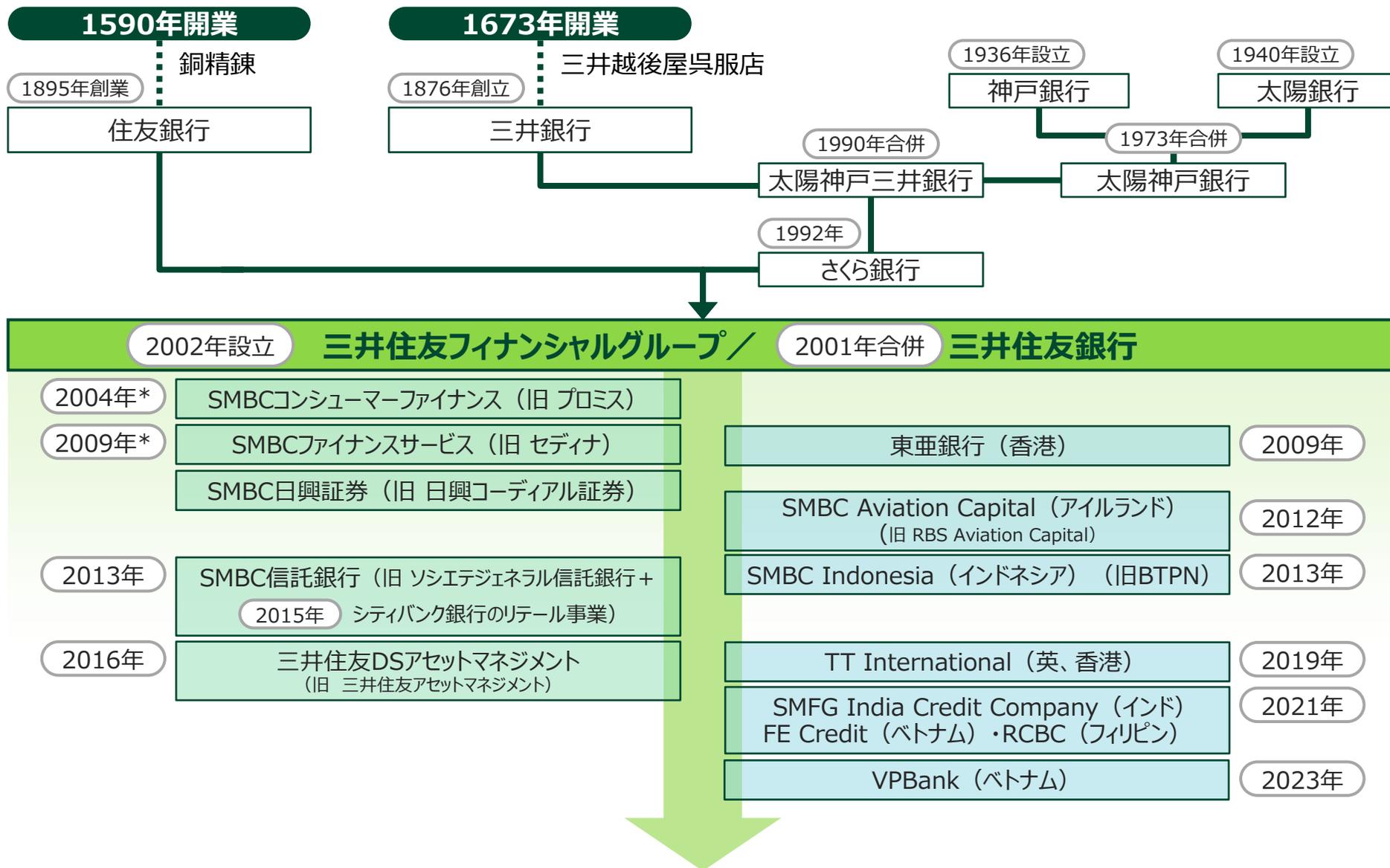
女性が活躍しています!



SPORTS YELL COMPANY 2025

\*1 主要グループ各社において、厚労省による子育てサポート企業に係る認定「プラチナくるみん」(5社)、女性活躍推進に係る認定「えるぼし」(3段階: 2社、2段階: 5社)、スポーツ庁による従業員の健康増進を目的としたスポーツ活動に係る認定「スポーツエルカンパニー2025」(4社)を取得

# SMBCグループの沿革

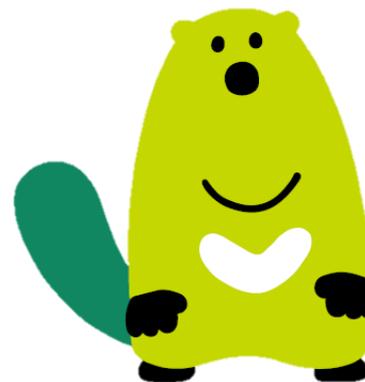


## ミドすけ



- 三井住友銀行キャラクター
- ひよんなことから人間の世界に住みついた、緑色のカワウソ
- 特技は、10円玉を立てること

## ビバすけ



- SMBCグループ共通のポイントであるVポイントを知ってもらいたくて、日々はりきっているビーバー
- 趣味は、Vポイントを集めること



本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与うるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有株式に係るリスク、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合併事業・提携・出資・買収および経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものを参照ください。